

水辺空間活用（舟運）ワーキング 第5回 議事要旨

1 日時・場所

平成 29 年 1 月 27 日（金曜日） 午後 3 時～午後 4 時 30 分
東京都庁第二本庁舎 31 階特別会議室 22

2 委員一覧

別紙 名簿のとおり

3 議題

- (1) 東京都舟運社会実験について
- (2) 意見交換
- (3) その他

4 主な発言要旨

〔清水教授（主査）〕

- 何を検証する目的で社会実験をやったのか、目的を踏まえて成果はどうだったのかという視点も必要である。そうした視点を経て、来年度の検討を進めるべきと考える。
- 船着場周辺とどう連携を図っていくかという点も踏み込まないと航路の定着化は難しい。この点を踏まえて来年度の社会実験を組み立てるべきだ。
- 5か年の全体計画をロードマップとして整理し、そこから逆算して各年度にするべきことを考える必要がある。骨太のロードマップのようなものが必要であると考え。
- 国、都、区がバラバラに社会実験、運航をやっても仕方ないので、PR等まとめて出来るところは連携するべきであると考え。
- 検証項目は六つ、「航路」、「船体仕様」、「船着場とその周辺」、「船内サービス」、「利用シーン」、「ビジネスモデル」と考える。
- このワーキングのタイトルをみても、単に舟運だけでなく水辺周りの空間全体を検討することが重要であり、そうした空間を作る手段の一つが舟運という理解も重要なのではないか。そうした環境づくりを含めて民間による自走化を考えると、どのタイミングで自走化を促すのか東京都としても考えなければいけない。

〔篠原准教授〕

- 期間を決めて定期的運航による社会実験を行えたのは今年度の大きな成果であると思う。準備などを含めて運航することに注力する必要があることは理解できる。
- 他の事例も含めて申し上げているポイントとして、この種の事業の成功の秘

訣は「採算ベースに合っているか」「地域連携をしっかりと行っているか」の二つであると考えている。特に地域連携については、それぞれの地域における年間の主要イベントを把握し、そうしたイベントを活用して地域と一緒に舟運の盛り上げを考えていき、地域の方に乗船してもらって意見をもらい、改良を重ねていく地道な努力が必要である。

- 旅行会社に企画を作ってもらうためには、経験上2月末から3月上旬には社会実験の発表をしなければ告知協力の間に合わないのではないかと。
- 東京都のほか、大田区、品川区でも舟運の社会実験をやっているが、利用者からすれば、どの事業者がやっても関係ないので、情報展開の方法など事業者をまたいで今後一本化していく必要があると強く感じる。
- どの舟が何時にどこから出るか、利用者視点では非常に分かりづらいのが実情であり、改善が求められる。
- 「乗った人は本当に楽しいのか」という原点をもう一度確認する必要がある。「もう一度乗りたいと自分が思えるか」等、小さなことでも再度確認して品質を上げることが重要である。

[千代田区]

- 千代田区は社会実験に直接関わっているわけではないが、日本橋川や神田川など観光資源はあると思っている。今後の事業拡大に期待したい。

[中央区]

- 周知の方法が課題である。日本橋には船着場も定期便もあるが、「どこに受付があるのか」「どの船が何時に出るのか」等のアナウンスが行き届いていない。運航の時間や所要時間のアナウンスができれば利用促進に繋がるのではないかと考えるので、今後も連携していきたいと考えている。

[港区]

- 日の出棧橋について、自転車のシェアリングポートの設置をするという案もあったが実施まで行けなかった。来年度に向けて引き続き検討を加速して進めていきたい。

[台東区]

- アンケート集計結果の見方によっては、長いのを楽しむ乗船者がいないわけではない。天空橋と浅草二天門の間を短時間でいきたいというニーズ等も注目していきたい。

[江東区]

- 今回の社会実験は、隅田川沿いの南北方向の運航航路・船を増やしていく方向だが、東京2020大会開催時の公共交通機関や道路状況を考えると、スタッ

フや選手の移動に東京湾、晴海運河の東西方向で舟運を使うことを計画すべきではないか。江東区観光協会として実験的な航路のプログラムを検討していると考えている。

[墨田区]

- 吾妻橋だけでなく北十間川にも船着場を設置予定であり、新たな水辺空間づくりを進めている。

[大田区]

- 天空橋が所在する関係から東京都の社会実験の問合せが大田区にも来ていた。年配の方も乗船されるので、電話での問合せ窓口により利便性が高まると考える。
- 天空橋は駅から近いが周辺整備が進行中で、5月下旬には周辺整備の開発業者が選定される見込みのため、引き続き各所と協力して舟運活性化の取組を進めていきたい。
- 本年は区で、社会実験として3回運航を実施した。天空橋出発の周遊ルートで、総合満足度は「概ね満足」だったが、待合室については今後の船着場周辺の環境整備が期待される。平成29年度に大森ふるさとの浜辺公園の船着場を使った社会実験を検討中である。

[品川区]

- 10月下旬から1月中旬まで社会実験を実施した。予定170便中、149便運航した。アンケートはまとまり次第次回のワーキングで報告予定である。
- 棧橋の場所やいつ・どの便が出るかという周知が一番の課題である。東京都の実験の状況を踏まえて検討していきたい。
- 天王洲アイル駅すぐ近くの防災船着場が3月に整備が完了する。平常時は一般開放する方向で考えている。社会実験や定期便をできるだけ呼び込みたい。

[江戸川区]

- 20年前に行っていた舟運は「船からのロケーションを楽しむ」ということを目的として実施していた。棧橋は5、6か所整備したが、船着場までのアクセスや周辺地域との連携の努力が欠けていた。
- 乗船リピーターをどう作るかが課題である。東京ディズニーランド近辺でのナイトクルージングや葛西臨海公園等観光資源があるので、今後の検討の際には江戸川区の方まで足を伸ばして欲しい。

[屋形船東京都協同組合]

- 乗客が「日常移動として」船に乗るのか、「観光目的で」船に乗るのかを見極めないと、ただ船を運航させても意味がない。

- 船着場の設備はおおむね問題ないと思う一方、街への接続が弱いと感じている。

[東京湾遊漁船業協同組合]

- 社会実験の課題としては「周知が足りない」ことが挙げられる。「何時にどこからどこへ船が出る」ということが知られていないことが課題であると改めて認識した。

[東京観光遊漁船協議会]

- 船を運航させる場合、通常関東運輸局の許認可手続に時間がかかるが、今回は東京都の社会実験ということでスムーズに許認可が出たことの意義は大きい。
- 当協議会が亀戸で実施した社会実験では、地域の方の協力を得てほぼ全便満席の状態に運航することができた。地域の方と連携を密にすることが重要だと思う。

[旅行協会]

- 平成 29 年 2 月 14 日に東京都の働きかけのお陰で、インバウンド委員会で水上タクシーの体験乗船及び意見交換を実施予定である。
- 平成 28 年 12 月 15 日にインフラツーリズムの体験及び意見交換を実施した。それから派生して多くのツアー商品が作られた。協力することは可能なのでお声掛けを頂きたい。

[事務局]

- 社会実験の目的は新たな航路の開発と既存航路の拡充による市場拡大にある。実際に船を走らせてみて需要があるのかどうか、需要を喚起できそうなのかどうかをやりながら検討していきたい。
- 国や各特別区とも連携して情報発信を進めていきたい。
- 他の取組と併せて行うものも含め、認知度の向上のための取組を来年度も継続していきたいと考える。
- マーケットの分析を行うため、各船着場の利用状況をいただきたい。

以上

水辺空間活用(舟運)ワーキンググループ(第5回)参加者名簿				
	役職名		委員名	備考
主査	首都大学東京大学院都市環境科学研究科教授		清水哲夫	
専門アドバイザー	跡見学園女子大学観光コミュニティ学部観光デザイン学科准教授		篠原 靖	
委員	東京都	政策企画局調整部技術政策担当課長	池田 中	代理
委員	東京都	政策企画局調整部政策担当課長	池田 庸	代理
委員	東京都	都市整備局都市基盤部物流調査担当	関口 知樹	
委員	東京都	都市整備局都市基盤部交通プロジェクト担当課長	井川 武史	
委員	東京都	産業労働局観光部観光施策担当課長	原 郁	
委員	東京都	建設局河川部河川管理制度担当課長	高橋 正和	代理
委員	東京都	建設局河川部低地対策専門課長	富澤 房雄	代理
委員	東京都	港湾局港湾経営部監理担当課長	下羅 智宏	
委員	東京都	港湾局港湾整備部環境対策担当課長	小野 正揮	
委員	千代田区	環境まちづくり部 麹町地域まちづくり課長	金子 修	
委員	中央区	区民部 商工観光課長	田中 智彦	代理
委員	中央区	環境土木部 水と緑の課長	溝口 薫	欠席
委員	港区	街づくり支援部 交通対策担当課長	西川 克介	
委員	港区	芝浦港南地区総合支所 まちづくり担当課長	村上 利雄	欠席
委員	港区	産業・地域振興支援部 観光政策担当課長	重富 敦	欠席
委員	台東区	都市づくり部 都市計画課長	望月 昇	
委員	墨田区	都市整備部 都市整備課長	齋藤 雄吉	
委員	墨田区	産業観光部 観光課長	金子 明	欠席
委員	江東区	都市整備部 まちづくり推進課長	草深 玲安	
委員	江東区	一般社団法人 江東区観光協会 事務局長	田中 洋二	
委員	品川区	防災まちづくり部 河川下水道課長	和田 淳	代理
委員	大田区	まちづくり推進部 空港臨海部調整担当課長	浦瀬 弘行	
委員	江戸川区	土木部 水とみどりの課長	大竹 則之	
委員	日本旅行業協会 関東事務局事務局長		鈴木伸一	
委員	関東旅客船協会 事務局長		西牧秀夫	
委員	屋形船東京都協同組合 理事長		佐藤勉	
委員	東京湾遊漁船業協同組合 理事長		飯島正宏	
委員	東京観光遊漁船協議会 会長		島田誠一	